

特集 : 世界の地理教育 : マレーシアの地理教育

SHIBATA, Takeshi / 柴田, 健

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

32

(開始ページ / Start Page)

31

(終了ページ / End Page)

36

(発行年 / Year)

2000-10-10

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00025775>

マレーシアの地理教育

柴 田 健

I はじめに

II 「高校地理 A」でのマレーシアの扱い

III マレーシアの学校教育

IV マレーシアの地図帳から

V まとめ

I はじめに

ASEAN 10 の中で、日本・韓国を見ならえという「ルックイースト」政策を首相が提唱しているマレーシア。反共産主義の国家グループであった東南アジア諸国連合に、1995 年社会主義国であるベトナムが加盟するという国際情勢の大きな変化がおきている。

過去数回、日本軍の侵略の跡をたどる「マレー半島戦争追体験の旅」に参加し、旅程の中でかつてはプランテーションのゴム林・油ヤシ林、錫鉱山などを見学してきた。今夏も 6 年ぶりに北部のペナン島からシンガポールまでマレー半島西海岸を旅してきた。経済水準の向上とクアラルンプールを中心とした都市化の進展が大きく変化していた点である。1976 年に初めて訪問して以来の変化の大きさにとまどいを感じている。

本稿では高校におけるマレーシア学習の状況と、マレーシアでの地理（地図）教育の一部を紹介していきたい。

II 「高校地理 A」でのマレーシアの扱い

現行学習指導要領において、高等学校の社会科（地歴科）地理は地理 A 2 単位と地理 B 4 単位の 2 つの選択科目がある。2, 3 の地域を扱うという縛りがあり、従来の多角的な地誌学習は想定されていない。したがって教科書記述においても、マレーシアという国家の扱いと「マレー世界」という地域概念が混在している。ここでは、勤務校で入手できた 5 社の地理 A 教科書を検討したい。

①清水書院・新地理 A

【第 2 編世界の人びとの生活・文化と交流：第 3 章国際交流と日本の立場】において、東南アジアを「多重複合的社会」と表現している。さまざまな民族・宗教がこの地域に入り込んでいく過程を紹介し、自給自足経済からヨーロッパ諸国による植民地支配に伴うモノカルチャー経済構造への転換を指摘している。プランテーション農園の労働力として移民が流入し、多民族国家となっていく複合社会の典型としてマレーシアが例示されている。

依然として、マレー系 6：華人 3：インド系 1 という従来通りの民族構成学習が続いている。同じカンボン（村）でもマレー系と華人系住民が隣接地域に集落を形成するという、棲み分けの実態は知られていない。

ちなみにアジア太平洋戦争（日本軍のマレー半島コタバル上陸は 1941 年 12 月 8 日、ハワイ真珠湾攻撃より 1 時間前である）での日本軍の住民虐殺の対象は華人社会であり、中国本土の抗日組織への資金援助を日本軍が警戒したことが背景となっている。マレー系住民は抵抗運動をほとんどしていない。現在、中華大会堂（華人社会の組織）はかつて日本軍に強制献金させられた 5000 万ドルの返還を日本政府に求めている。いわゆる戦後補償ではなく、借金返済にかかわることをこの国の政府はねぐってきたのである。



■出席讲座会的人士有老有少。 2000年8月17日 ● 星期四

更多学者揭发二战史实 日人渐了解蝗军暴行

〔吉隆坡16日讯〕高岛伸欣教授表示,虽然第二次世界大战已结束55年,日本政府和传媒仍在掩盖事实,日本民众一般上都不晓得在二战时,中国和东南亚无数华人被日军无辜屠杀。

他说,他一直在思考到底是什么原因,使到二战时,日本军队在中国及东南亚各地作出侵略及残酷屠杀华人平民的行动。

他认为,最重要原因是当时的日本平民被政府及军方刻意隐瞒事实,误信日军在发动解放亚洲的圣战,成立大东亚共荣圈。

他说,幸好今日有越来越多日本学者和年轻人,开始从各种管道了解事情的真相,并以实际行动向日本民众传达事实。

高岛伸欣昨晚在雪华堂会议室,为“历史与事实,战争与和平”讲座会,发表谈话。

这项讲座会是“大马纪念日据时期殉难同胞委员会”,从本月12日起举办系列活动之一,纪念二战结束55周年纪念日。

他从1970年开始每年大学假期都到马新各地,考察日军暴行的证据,回到日本编成报告书或举行讲座会,每年都有学生跟随,如昨晚就有16名考察团团员陪伴他出席讲座会。

他目前是日本冲绳琉球大学讲师,1993年他负责编排日本教科书时,被日本政府禁止他将二战时日军侵略行为,编入教科书,他和日本政府打官司胜诉,



■高岛伸欣教授:日本传媒与政府掩盖事实。

政府上诉,案件还在进行着。他对日本已故裕仁天皇在战后,不需负上二战责任感到遗憾,他认为天皇和二战有密切关系。

他指出,日本政府每年耗巨资扩充自卫队,仅今年日军经费已经等于东协10国军费的总数,有恢复军国主义的迹象。

日本走向危险

他赞同日本以外的意见,日本正走向危险的道路,可是一般日本民众仍然没有发觉到。

他举新加坡为例,今年新加坡教育部已经把二战时日军在马新的侵略行动,编入小学历史课本,往年只有初中历史课本有提到日本二战时的侵略行动。

第1图「追体験の旅」を紹介する『南洋商報2000.8.17』

②教育出版・地理A改訂版

【第2章世界の人びとの生活・文化と交流:第3節人々の交流と日本の課題】において,国際交流と外国人労働者の増加を扱っている。そ

こでは日本で学ぶマレーシアからの留学生が写真で紹介されている。どの教科書でも政府の意向を反映してか,「不法就労外国人」のデータを掲載し強調している。だが経済先進国に外国人労働者が集中するのは,自然な推移である。将来の労働力不足が500万人に達すると推計される時代に,外国人労働者の存在は日本社会に不可欠となっている。そろそろ脱却したい姿勢である。

【第3章現代世界の課題と国際協力:第2節地域にみる地球的課題】においては,東南アジアの森林破壊という小項目でカリマンタン島の木材枯渇の逃げ道として,規制の少ないマレーシア・サバ州からの木材輸入の増大が示されている。その地域の先住民の抵抗運動の紹介があり,マングローブ林破壊についても記述がある。NIESからASEANへという項目では,他社も同一であるが日本との経済活動の結びつきだけが強調されている。

工業化に伴う環境汚染は,マレーシア北東部のバターワース工業団地の未処理廃水やイポー郊外のプキメラ村の日系企業の放射性廃棄物放棄に伴う胎児性障害者の存在が扱われている。住民運動の結果,当該企業は1993年に訴訟では勝訴したがその後事業から撤退している。国内での公害規制の結果,アジア地域に代替施設を求める企業が起こした事件である。

この事例は他社版地理B教科書にも扱われており,先述の「マレー半島戦争追体験の旅」の参加者がプキメラ村民と幾度か接触し持ち寄った情報を教科書記述に反映させている。

③東京書籍・新編地理A(環境と人間)

【第2章諸民族の生活・文化と地域性:6マレー系の人々の生活・文化】において,マレー世界というくくりで,ブルネイ・インドネシア・マレーシア・インドネシアを総合的に扱っている。マレー系社会を志向するブルネイはイスラム教と王制を理念とした国づくりをしているが,産油国としての豊かさがこの国を支えている。

マレー語という共通語がこの地域をつなぐものとして、大きな役割を持っている。ここでもマレーシアは連邦制の君主国（13州中9州でスルタンがおり連邦代表が互選されるが、国王と位置づけるには無理がある）とされ、マレー系・華人・インド系の複合国家であることが強調されている。マレー人を優遇する「ブミブトラ政策」は記述されていない。この夏華人社会から、行き過ぎたブミブトラ政策が経済成長に悪影響を及ぼしているとして、その是正がマレーシア政府に提起されている。イスラム教徒は国民の60%だが、マレーシア国教の扱いを受けている。

国民の90%がイスラム教徒であるインドネシアは、国教とはしていない。マレー語を国語（インドネシア語）として採用して以来、国家をまとめる政策を進めているとの記述があるが、そこからは東チモールやアチェの分離問題を想定させるものは伝わってこない。学習指導要領による縛りというより、各社横並びの体質がもたらす内容であると考えられる。シンガポールについては、華人が人口の77%を占める国内総生産額が大きい都市国家であるとしている。

まとめにあたる「マレー系の人々の社会と生活」という項では、キーワードは焼畑、プランテーション、ルックイーストの3つである。工業化が進んでいるASEANの一員であるマレーシアやインドネシアに対するこの扱いはバランスを欠いている。プランテーション経営の元で錫鉱山、油ヤシ、コショウがマレーシアの一次産業であるという記述のままでは、現在の活力ある社会のイメージとはほど遠い。

相原正義（北海道教育大函館校）は学習指導要領の「地理的見方考え方」という視点の押しつけが、地理が市民化しない要因であると指摘（『法政地理31号』）している。この《～系の人々の社会と生活》という大味な旧来のイメージのままのくり方は、高校生にマレーシアを中心とする東南アジアに対する認識を誤らせることになろう。

④二宮書店・地理A（現代世界のすがた）

【第Ⅱ章世界の人びとの生活・文化と交流：第3節諸地域の人びとの交流と日本の課題】において、多民族国家の要点をまとめ、ブミブトラ政策を重要語句としている。マレーシアの扱いが軽い教科書である。

⑤帝国書院・新地理A初訂版

【第2部世界の人々の生活・文化と交流：第4章各地の人々の国際交流】においては、具体的な資料が豊富に掲載されている。まず「アジアへの直接投資と日本」（1998年）という図ではマレーシアへは68億ドルで日本は27%、シンガポールへは41億ドルで日本は34.3%、インドネシアへは299億ドルで日本は25.8%である。高校生に直接投資がどの程度把握できるかは別であるが、「製造業における東南アジア諸国の賃金水準」（1995年）では日本を100とするとマレーシアは8.6、シンガポールは48.9、インドネシアは1.7である。「クアラルンプール郊外の日系企業」というコラムでは、日系電気機器工場での生産の急増にともなう日本国内の「空洞化」に言及している。

「ASEAN諸国の人々の生活の変化」の項では、1960年頃には30万人台であったクアラルンプールの人口が115万人（1991年）にも達しただけでなく、「英連邦ゲーム」と呼ばれる大規模なスポーツ大会の開催（1998年）を機に新空港、郊外電車などが急速に整備されたことが紹介されている。今夏訪問した者から見ても妥当な表現であると思われる。

地理教科書としてはシェアがきわめて大きい会社であるためか、手間とコストをかけた編集であるといえよう。

Ⅲ マレーシアの学校教育

国民学校（小学校）6年、中学校3年、上級中学校2年、フォルム6（大学予備門）2年、大学3～6年がマレーシアの学校制度の基本型である（第2図）。小学校において中国語・タ

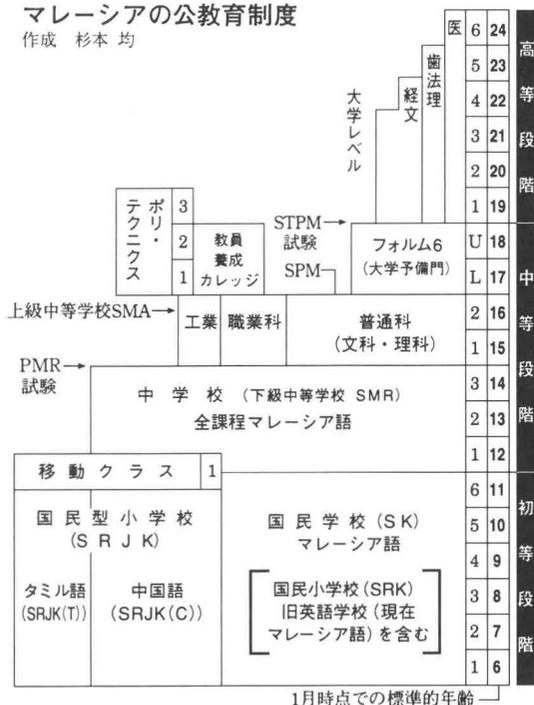
ミール語の国民型小学校で学んだ生徒は、マレー語の学習を求められている。中学進学前に1年間の「マレー語移行クラス」で学ばなければならない。

中学3年次にPMRという統一試験があり就職か否かを分ける。上級中学の最後にSPMという統一試験がある。非ブミブトラの学生はフォルム6の2年次にSTPMという統一試験を受ける。これをブミブトラ(マレー人)学生は受けなくても大学進学はできる。マレー系優遇策により、1960年代には20%であったマレー系学生は1980年代は国内大学生の70%を占めるにいたった。

1969年の政治的混乱に端を発したマレー人優遇の「ブミブトラ政策」が教育制度にも波及している。先述のように華人社会から、マレー人優遇に対して経済力を削ぐとして批判が起きているが、政策変更の可能性は少ない。

マレーシアの公教育制度

作成 杉本 均



第2図 水島司『アジア読本 マレーシア』(河出書房新社)

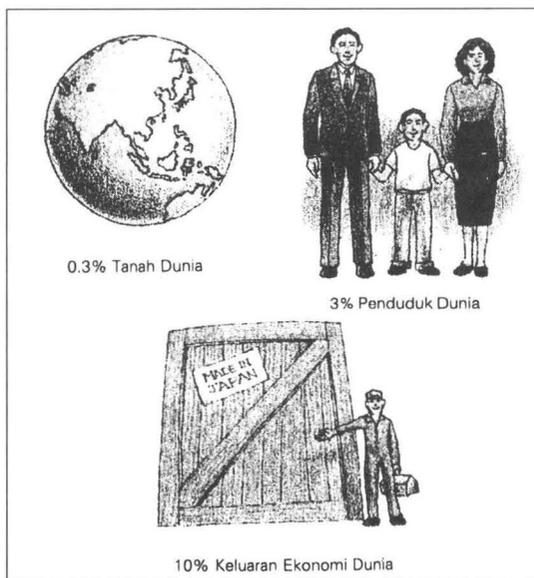
IV マレーシアの地図帳から

1) 日本への扱い

外国を旅した場合にその国の義務教育で使用している地図帳を購入する事が多い。その国の世界観、図書の水準を推測することができ、それぞれの国と日本がどう扱われているのかがはつきりするからである。マレー語は理解できないが、読める範囲で紹介していきたい。

日本については、中学地図帳の一つ³⁾は自然から経済力まで4ページ程度で紹介している。地名は岡山が富山になっているが、釜石・日立なども出ている。世界の中の位置付けとして、面積は0.3%、人口は3%、経済力は10%である(第3図参照)としている。年齢別人口構成は1960年の「年少人口30%、生産年齢人口64%、高齢人口6%」から2000年推計値の「年少人口16%、生産年齢人口68%、高齢人口16%」まで10年刻みで記載されている。

小学校地図帳には世界の河川、島嶼、高山などの説明の項にナイアガラの滝と並んで冠雪した富士山の写真がでている。



第3図

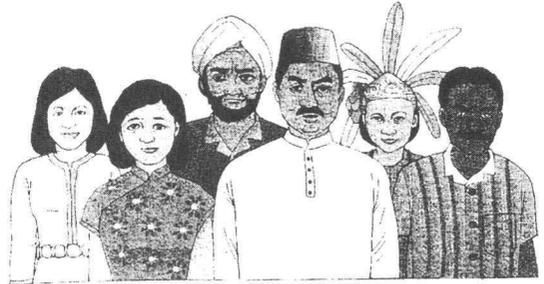
2) マレーシアの扱い

小学校地図帳はマレーシア各州の記載が主であり、東南アジアや世界全図が3種でている。民族融合がめざされているためか、各民族のイラスト(第4図)にも気を配っている。農業・工業などの統計図において、産物が外国人にも理解しやすいイラストで描かれている。第5図は鉱産資源分布図である。Eは金, Kuala Lumpur市やIpoh市周辺の横長の記号は錫関係である。豊富な鉱産資源の一端がかいま見える。

中学校地図帳は文章での解説が多い。文献3の地図が転載しやすいのでここでも利用する。第6図はマレー半島(西マレーシア)の政治地図であり、州都とスルタンの存在の有無がわかる。第7図は首都Kuala Lumpur市の市域拡

大の図である。中心の核部分は1896年の市域となっている。今回郊外電車で北部の終点まで行ったが、1976年の初訪問以来の変化が実感できた。

これまで、旅の途中で目に入ったものを見ただけであったが、入手した資料を読み込むと実態を把握できる。



Kaum-kaum utama di Malaysia

第4図

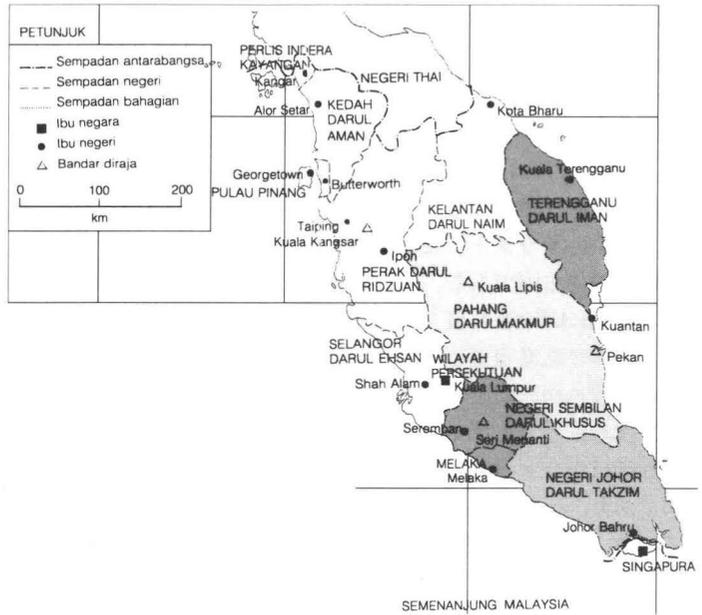


第5図

V まとめ

日本の高校地理教科書から得られるマレーシアのイメージと、地元作成地図帳の記載資料には大きな差がある。簡単な「馬華英辞典」で理解できる範囲でも違いがわかるのである。

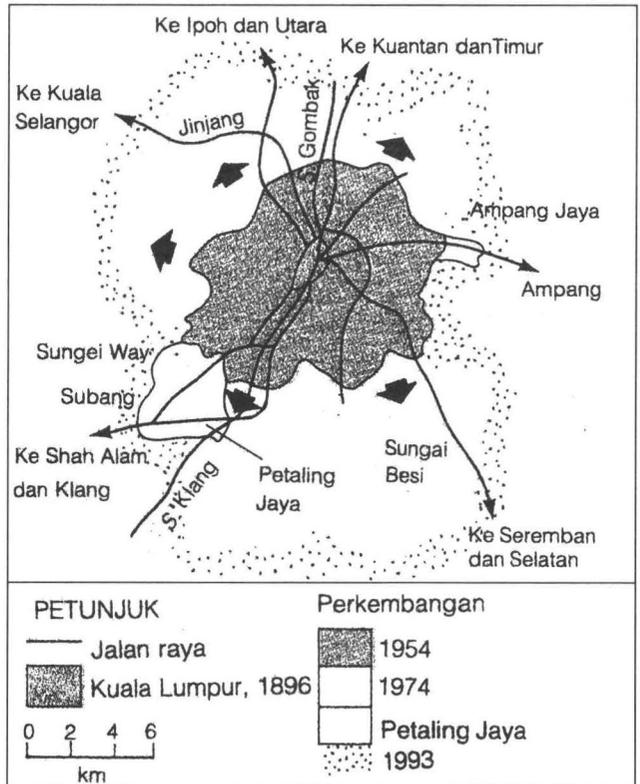
日本紹介に関しては世界における日本の位置づけや40年間の年齢別人口構成まで資料化されているとは考えられなかった。またマレーシアの情報からは、ゴム園や油ヤシといった昔ながらのプランテーション像を崩すことや、「複合民族国家」の典型的な地域として多民族化する日本への教訓を与えてくれている。



第6図

参考文献

- 1: ATLAS LENGKAP KBSR (小学校地図帳 1998年)
- 2: ATLAS BESTARI KBSM (中学校地図帳 2000年)
- 3: ATLAS EKSPLORASI Geografi KBSM (中学校地図帳 2000年)
- 4: 水島司: アジア読本マレーシア. 河出書房新社.
- 5: 侵略・マレー半島 (東南アジアで考える旅の会 1983~1999年)
- 6: 太田勇: 華人社会研究の視点. 古今書院.



第7図